様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０２５０

研究課題名（和文）中世文学における仏教説話の受容に関する比較研究

研究課題名（英文）A study of Buddhism narration in the medieval literature

研究代表者
金　任仲（KIM, IMJUNG）

明治大学・公私立大学の部局等・研究員

研究者番号：３０５９９５７７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円、（間接経費）　　1,050,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間内に実施した研究は、『華厳縁起』絵巻における明恵と元暁・義湘との関わりを中心に、仏教説話の享受と思想的影響を考察した。主な研究成果といては、明恵と元暁・義湘との関わり、義湘と善妙の説話、唐法蔵が義湘に寄せた書簡、元暁の『金剛三昧経論』縁起説話、明恵の光明真言信仰などを日本語と韓国語で執筆して学術雑誌に掲載した。また、新羅僧元暁と義湘に関連する寺院と霊場及び文献調査を行い、明恵と元暁・義湘における思想や言説に対しデータベースを構築した。これらの研究成果は、Web上にホームページを立ち上げて広く社会に情報を公表した。

研究成果の概要（英文）：I studied as follows within study period. Mainly on a relation with Myoe and Gang yo, Gisho in Kegon-Engi. I examined the enjoyment of the Buddhism narration and influence on thought. This in my impotant results of research. Myoe and Gangyo, Gisho and relation. The naration of Gisho and Zenmyo . The letter which Tong Hozou sent to Gisho. A study of Kongozanmaikyoron narration. I wrote it by Japan l anguge and Korea languge placed it in the learned journal. I buitt a database for thought and verbal expla nation about Myoe and Gangyo, Gisho. I made a homepage on Web and published informatio widely in the socie ty.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：華厳縁起　明恵　元暁　義湘　善妙　高山寺

１．研究開始当初の背景

(1)　高山寺に伝来する『華厳縁起』絵巻は、「華厳宗祖師の絵」であるが、日本・中国でのない新羅の元暁と義湘を華厳宗の祖師として、優れた筆致で文学的に描かれている。それは、元暁・義湘という二僧の名を借りて、明恵自身の思想と体験を語るためであると見て、本研究を進めてきたのが、その動機になっている。

（2）　本研究は、東アジア文化交流に通じるものとして、これまであまり注目されていなかった明恵と新羅の高僧元暁・義湘との関わりを思想と文学・文化の両面から研究するまったく新しい試みである。さらに、元暁・義湘の思想と言説が与えた影響を仏教の教義に限定することなく、明恵との関連について検討を加えることにより、12・3 世紀の日本文化への理解が深まると思う。

２．研究の目的

(1)　日本文学・文化と宗教との関係は、日本文化の本質を考察する中でも、中世文学・文化にとって、仏教とどのように関わっているのかの解明は、最大の課題である。

(2)　そこで本研究は、中世文学の絵巻・伝記・説話集において、新羅僧である元暁・義湘の思想と言説が、どのように受け止められ、日本の思想文化の形成にいかなる影響を及ぼしていたか、明恵と元暁・義湘との関連を中心として考察し解明することを研究目的とする。そして、京都・関西地方と韓国で現地調査を行い、両国の文献資料の比較分析を通して、明恵における元暁・義湘の思想的影響、仏教説話の享受と伝播、相違点について究明する。

３．研究の方法

(1)　本研究は、明恵と元暁・義湘との関連について、『華厳縁起』をはじめ、高山寺関連資料・説話集・史書・仏教典籍・縁起書などを多様に援用しながら、韓国の資料『三国遺事』・『三国史記』・『円宗文類』を中心に比較研究を行い、日本中世文学における仏教説話の受容の形態を明らかにする。

(2)　また、絵巻・伝記・説話集・高山寺関連資料などから明恵と元暁・義湘に関連する記事を調査・収集すると共に、韓国の資料『三国遺事』『三国史記』、その他各地の元暁と義湘に関わる縁起書・金石文などについてのフィードワーク調査を併せて実施し、明恵における二僧の思想的影響を解明していく。さらに、仏教法語にかかわる明恵と元暁・義湘の思想や言説を、諸文献の該当箇所を集めたデータベースとして構築すると共に、Web 上でホームページを立ち上げて社会に向けて情報を公表する。研究成果を発表するために、国内外の学会・研究会に積極的に参加して発表し、学術論文を日本語と韓国語で執筆して学術雑誌に投稿する。

４．研究成果

(1)　明恵と元暁・義湘と関連する仏教法語・言説は、主に高山寺関連資料・縁起・説話集と韓国の資料『三国遺事』・『三国史記』・『円宗文類』、縁起書・金石文など該当箇所を中心にデータベース化を構築した。

　また、明恵と義湘・善妙に関わる資料に基づき、糸野遺跡と高山寺、善妙寺の跡を調査し（2012 年 3 月 19 日～22 日）、現在善妙寺の寺跡を受け継ぐ為因寺の住職大田信弘氏の好意により、「宝篋印塔」などを善妙寺から為因寺に移した経緯に関する資料を入手し、江戸中期の立像「善妙明神像」と善妙明神社を画像資料として収録することができた。この現地調査を参考に書いた論考が「新羅僧義湘と善妙の説話」である。さらに、元暁と義湘と関わる寺院・霊場、及び文献資料調査を行った（2013 年 4 月 28 日～5 月 2 日）。とくに、義湘とゆかりのある中国の終南山至相寺・興教寺・華厳寺・香積寺などの現地調査を通して得られた資料を本研究のために大きな収穫であった。この現地調査を参考に書いた論考が「『唐法蔵致新羅義湘書』の書簡をめぐって」である。

(2)　新羅の華厳僧義湘と善妙の説話は、北宋の賛寧（919～1002）撰『宋高僧伝』巻四「唐新羅国義湘伝」に見える話である。『華厳縁起』「義湘絵」には『宋高僧伝』に出てくる善妙に対し、明恵が華厳擁護の神として祀り、義湘と善妙の説話にちなんで、明恵と尼僧を含む女性信者との関係が意識されていると言えよう。明恵の善妙に対する思い入れの深かったことは、貞応二年（1223）、彼が承久の乱（1221）による戦争未亡人たちの救済のために建てた尼寺を、善妙寺と名づけている事実によっても窺うことができる。　本稿では、『華厳縁起』絵巻に見える義湘と善妙の説話を中心に、『宋高僧伝』と韓国側の資料『三国遺事』・『圓宗文類』などに語られる説話との相違点を検討し、日本における仏教説話の受容の形態をめぐって考察を試みた。

(3)　義湘は龍朔元年（661）37 歳の時に入唐し、中国華厳宗の第 2 祖智儼の門下で法蔵と共に師事した。そして、10 余年間華厳教学を極めて帰国した後、太白山に華厳根本道場の浮石寺を建てて華厳宗を宣揚し、海東華厳の初祖と仰がれた。同門の法蔵は智儼の入寂後 2 年（670）太原寺において出家し、華厳教学を宣揚して中国華厳学の大成者となった。この 2 人は同門であったけれども、18 歳の年齢差や学問の造詣からいえば、法蔵は兄弟子として義湘を慕っており、義湘が新羅へ帰ってからも、常に先輩として礼を欠くことはなかった。この 2 人の交流が深かったことは、義湘帰国後に送ったという法蔵の尺牘（書簡）

から窺い知ることができる。本稿では韓国と中国の仏教交流史において大変注目に値する、法蔵書簡が韓国に伝わらなく、なぜ中国に伝来されたか、その歴史的背景や経緯をめぐって、この書簡の内容と『法蔵和尚伝』、劉基の跋文などを検討した。今後、この法蔵の書簡と別幅との関連について、詳しい検証が必要である。

(4)　義湘は新羅時代の高僧で真平王 47 年（625）に生まれ、20 歳のとき慶州の皇龍寺で出家した。永徽元年（650）、26 歳の時、中国の玄奘がインドからもたらした唯識学を学ぶために、同学である元暁と共に中国へ留学の旅に出たが、高句麗の国境付近で守備兵によって拘留されて失敗に終る。その後、龍朔元年すなわち文武王元年（661）37 歳の時に再び中国留学の旅に出たが、一人で陸路を利用して唐へ行くことは危険であると考え、今度は海路で出発して中国の唐に入り、翌年長安の南にある終南山至相寺の智儼（602～668）につき、同門の法蔵と共に華厳教学を学んだ。一方、明恵は鎌倉時代に華厳宗の復興に力を注いだ僧であるが、時間・空間を越えて 7 世紀の新羅の高僧義湘に深く傾倒していた。高山寺の明恵は義湘を「華厳宗の祖師」として尊崇の念を抱き、『華厳縁起』絵巻まで制作している。本稿では、義湘と明恵との関連をめぐって、日本と韓国との文化交流という点に注目しながら、まず『三国遺事』・『宋高僧伝』などに語られる義湘伝について述べた後、『華厳縁起』絵巻を中心に二人の関わりについて考察した。

(5)　元暁の宗教活動は、独自に研究を重ね、経・律・論の三蔵と大乗、小乗すべての経典に通暁し、仏教を総合的に体系化した「和諍思想」を創りあげ、韓国仏教の土台を築いた。さらに新羅の華厳宗を宣揚し、その影響は日本ばかりでなく中国華厳宗にも及んでいる。とくに、元暁の著書の中で中国仏教に大きな影響を与えたものが二つある。一つは『金剛三昧経論』であり、他の一つは『大乗起信論疏』である。『金剛三昧経』に関しては、禅宗の開祖達磨の「二入四行論」の教えを援用し、7 世紀後半、すなわち初唐の頃に中国で成立した偽経であるといわれるが、定かではない。中国仏教者はこの『金剛三昧経』に何一つ註疏を書かなかったので、元暁の注釈書が現存する唯一のものである。本稿では、『華厳縁起』絵巻に描かれている『金剛三昧経論』の縁起説話をめぐって、元暁の著書の日本における受容の問題に注目しながら、『宋高僧伝』と『三国遺事』などに語られる元暁伝との相違点を中心に検討した。

(6)　明恵における元暁の著作の引用は、『摧邪輪』『同荘厳記』と『光明真言加持土沙義』『光明真言土沙勧進記』『同別記』に集中しており、元暁の思想的影響を容易に窺い知ることができる。そのうち、明恵の『光明真言土沙勧進記』は、元暁の『遊心安楽道』の解説書ともいうべき著述であり、その内容のほとんどは光明真言土砂加持の信仰を鼓舞した書物である。明恵は日本の仏教史の上で、「不犯の聖僧」と評された鎌倉時代前期の華厳僧であるが、五百年という時間と空間を越えて 7 世紀の新羅の高僧元暁と義湘に深く傾倒していた。本稿では、元暁と明恵との関わりをめぐって、二人の思想的影響関係に注目しながら、『華厳縁起』をはじめ高山寺関連資料・『三国遺事』などを中心に考察してみた。

(7)　光明真言とは大日如来の真言であって、一切諸仏の総呪としてこれを唱えれば無量無辺の功徳があるという。また、この呪によって加持された土砂を亡者の屍体や墓の上に散布すれば、生前に十悪五逆の罪を犯した者も、その罪障が消滅して極楽往生を遂げるという密教の修法である。光明真言法の起源は古く、土砂加持の信仰は平安時代末期から盛んに行われていたが、それが一大流行を示したのは鎌倉時代初期であった。とくに高山寺の明恵は、その深奥に最も強く心を動かされた人であって、土砂加持の功徳に対する熱烈な信仰を持っていた。明恵の『光明真言土沙勧進記』は、元暁の『遊心安楽道』の解説書ともいうべき著述であり、その内容のほとんどは光明真言土砂加持に対する信仰を鼓舞した書物である。明恵は土砂加持の万人救済の功能を信じて、石水院の住房で土砂加持法を自ら実践し、民間にも光明真言土砂加持の信仰を広めたということで、思想や信仰における元暁への傾倒が窺える。本稿では、光明真言土砂加持の信仰の伝来と歴史的な展開を検討した上で、明恵における光明真言土砂加持の信仰がどのように受容されていたのかについて、『遊心安楽道』と『光明真言土沙勧進記』を中心に考察した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　17 件）

①<u>金任仲</u>、元暁の『金剛三昧経論』縁起説話、淵民学志 21 輯 、査読有、 2014、229－278

②<u>金任仲</u>、旅路に歌う西行、放浪、遍歴乞食行脚、創元社、査読無、2014、7－32

③<u>金任仲</u>、義湘大師と明恵上人、アジア遊学 169 巻、査読無、2013、102－116

④<u>金任仲</u>、唐法蔵致新羅僧義湘書の書簡をめぐって、淵民学志 19 輯、査読有、2013、223－265

⑤<u>金任仲</u>、新羅僧義湘と善明の説話、文芸研究 118 号、査読有、2012、37－54

⑥<u>金任仲</u>、西行における華厳思想と和歌、文芸研究 115 号、査読有、2011、55－73

⑦<u>金任仲</u>、西行の和歌起請―無道寺訪問を中心に、国文学解釈と鑑賞 76 巻 3 号、査読

無、2011、142－150
⑧金任仲、林雅彦、西行の終焉の地―弘川寺をめぐる、 国文学解釈と鑑賞 76 巻 3 号、査読無、2011、20－25
⑨袴田光康、三国遺事における神仏習合―帝釈信仰と護国思想、アジア遊学 169 巻、査読無、2013、189－202
⑩袴田光康、三国遺事研究の始発と現在―檀君神話をめぐって、アジア遊学 169 巻、査読無、2013、4－19
⑪袴田光康、藤壺と法華八講―竜女のゆくえ、王朝びとの生活誌、森話社、査読無、2013、323－344
⑫袴田光康、西野入篤男、金沢文庫本―琵琶引の本文と訓読、白居易研究年報 13 号、査読無、2012、192－215
⑬袴田光康、平安仏教における新羅明神―園城寺の起源伝承と新羅の弥勒信仰、淵民学志 18 輯、査読有、2011、110－183
⑭堂野前彰子、歌垣考―速総別王の逃避から、文化継承学 9 号、査読有、2013、1－9
⑮堂野前彰子、神武の来た道―丹と交易、文芸研究 118 号、査読有、2012、1－15
⑯林雅彦、日韓共同シンポジウム文化は誰のものか―日本文化をめぐって、いすみあ明治大学大学院教養デザイン研究紀要 6 巻、査読有、2014、99－106
⑰林雅彦、日本の絵解きの諸相、いすみあ明治大学大学院教養デザイン研究紀要 6 巻、査読有、2014、25－51

〔学会発表〕（計　12 件）
①金任仲、旅路に歌う西行―吉野・熊野へ旅、明治大学情報コミュニケーション研究科フォーラム、2013、11 月 30 日、明治大学
②金任仲、金剛三昧経論縁起説話、韓国日本言語文化学会、2013、11 月 9 日、韓国外国語大学
③金任仲、日本の伝統文化―和歌の流れについて、山東大学翻訳学院、2012、7 月 4 日、山東大学
④金任仲、徐福の渡来伝説―熊野・済州島を中心に、2011 年度熊野学会大会、2012、3 月 10 日、熊野・太地町
⑤金任仲、日本における義湘と善妙の説話、2011 年度第 6 回朝鮮民族文学学術大会、2011、10 月 21 日、山東大学
⑥金任仲、唐法蔵致義湘書の書簡をめぐって、2011 年度東アジア文化交流国際学術大会、2011、7 月 30 日、延世大学
⑦金任仲、西行と熊野・大峰、2011 年度国際熊野大会セミナー、2011、5 月 22 日、南山大学
⑧袴田光康、三国遺事研究の過去と未来―檀君神話をめぐって、韓国日本言語文化学会、2013、11 月 9 日、韓国外国語大学
⑨袴田光康、扶桑略記と三国遺事―歴史叙述と国家観をめぐって、明治大学古代学研究所シンポジウム、2013、3 月 9 日、明治大学
⑩袴田光康、平安仏教における新羅明神、2011 年度東アジア文化交流国際学術大会、2011、7 月 30 日、延世大学
⑪堂野前彰子、アメノヒポコと常世、延烏郎細烏女文化学院・慶北日報、2012、10 月 5 日、明治大学
⑫林雅彦、絵解き―唱導から見た説話と絵画、説話文学会、2013、9 月 14 日、駒澤大学

〔図書〕（計　2 件）
金任仲、放浪、遍歴、乞食行脚―偉大なる伝達者達（共著）、創元社、2014、7－32
袴田光康、王朝びとの生活誌（共著）、森話社、2013、323－344

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www.kisc.meiji.ac.jp/~imjung/kegonengi/index.html

６．研究組織
(1)研究代表者
金　任仲（KIM, Imjung）
明治大学・研究知財戦略機構・研究員
研究者番号：３０５９９５７７

(2)研究分担者
袴田　光康（HAKAMADA, Mitsuyasu）
静岡大学・人文社会科学部・教授
研究者番号：９０５５２７２９

(3)研究分担者
堂野前　彰子（DONOMAE, Akiko）
明治大学・経営学部・講師
研究者番号：５０５８８７７０

(4)研究分担者

林　雅彦（HAYASHI, Masahiko）
明治大学・法学部・教授
研究者番号：３０１３９４４８

(5)連携研究者
（　　）

研究者番号：